

タマネギべと病に注意してください

3月15日の病害虫防除所の巡回調査によると、タマネギべと病の発生圃場率は38.5%で、令和元年から5年間実施した巡回での平均値(37.4%)並であり、春先の強力な伝染源である全身感染株(図1)の発生が認められた。なお、3月21日発表の広島地方気象台の1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年より多いとされており、発生を助長する条件であることから、発生拡大が懸念される。

(防除上の参考事項)

- (1) 本病は、気温15℃前後(4月～5月上旬)で、雨が多いと多発生しやすくなる。
- (2) 本病は、多湿時には病斑上に白色または灰白色の分生胞子を形成し、これが風雨で飛散し、二次伝染源となって、急速なまん延の原因となる(図1、2)。分生胞子の飛散範囲は広く、地域一体となった防除が必要である。
- (3) 圃場をよく観察し、全身感染症状(図1)の株は見つけ次第抜き取り処分を徹底する。
- (4) 薬剤防除は予防散布が望ましく、特に発病を確認した圃場では葉によく付着するように薬剤散布を行う。雨天等の天候や薬剤の残効性を考慮しながら、7～10日間隔の防除を行う。なお、薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤の連用は避ける(表1参照)。
- (5) タマネギのべと病菌は**ネギやワケギにも感染**し、二次伝染源となる。



図1 タマネギべと病の全身感染株



図2 二次感染株の初期病徴

表1 タマネギべと病の主な防除薬剤

令和6年3月19日現在

| 薬剤名 | 希釈倍数 | 農業使用基準 | | 成分名 ^{注2)} | | 殺菌剤コード ^{注1)} | |
|----------------|--------------|------------------|------|---------------------|---------------------|-----------------------|-----|
| | | 使用時期 | 使用回数 | 成分1 | 成分2 | 成分1 | 成分2 |
| リドミルゴールドMZ | 500～1,000倍 | 収穫7日前まで | 3回以内 | メタラキシルM | マンゼブ | 4 | M3 |
| フォリオゴールド | 800～1,000倍 | 収穫7日前まで | 3回以内 | メタラキシルM | TPN | | M5 |
| ジャストフィットフロアブル | 3,000倍 | 収穫7日前まで | 3回以内 | フルオビコリド | ベンチアバリカル ブイソプロピル | 43 | 40 |
| ベジセイバー | 1,000倍 | 収穫7日前まで | 4回以内 | ペンチオピラド | TPN | 7 | M5 |
| アミスター20フロアブル | 2,000倍 | 収穫前日まで | 4回以内 | アゾキシストロビン | — | 11 | — |
| アミスターオプティフロアブル | 1,000倍 | 収穫7日前まで | 4回以内 | アゾキシストロビン | TPN | | M5 |
| シグナムWDG | 1,500倍 | 収穫7日前まで | 3回以内 | ピラクロストロビン | ボスカリド | | 7 |
| メジャーフロアブル | 2,000倍 | 収穫前日まで | 3回以内 | ピコキシストロビン | — | — | — |
| ランマンフロアブル | 2,000倍 | 収穫7日前まで | 4回以内 | シアゾファミド | — | 21 | — |
| ドーシャスフロアブル | 1,000倍 | 収穫7日前まで | 4回以内 | シアゾファミド | TPN | | M5 |
| フロンサイド水和剤 | 1,000～2,000倍 | 収穫7日前まで | 5回以内 | フルアジナム | — | 29 | — |
| フロンサイドSC | | 収穫3日前まで | | | | | |
| ザンプロDMフロアブル | 1,500～2,000倍 | 収穫7日前まで | 3回以内 | アメトクトラジン | ジメトモルフ | 45 | 40 |
| オロンディスウルトラSC | 2,000倍 | 収穫前日まで | 2回以内 | オキサチアピプロリン | マンジプロバミド | 49 | 40 |
| フェスティバルC水和剤 | 600～800倍 | 収穫7日前まで | 3回以内 | ジメトモルフ | 銅 | 40 | M1 |
| プロポーズ顆粒水和剤 | 1,000倍 | 収穫7日前まで | 3回以内 | ベンチアバリカルブイ ソプロピル | TPN | | M5 |
| カンパネラ水和剤 | 750～1,000倍 | 収穫7日前まで | 3回以内 | ベンチアバリカルブイ ソプロピル | マンゼブ | | M3 |
| ベネセット水和剤 | | | | | | — | |
| レーバスフロアブル | 2,000倍 | 収穫前日まで | 2回以内 | マンジプロバミド | — | — | — |
| ホライズンドライフロアブル | 2,500倍 | 収穫3日前まで | 3回以内 | シモキサニル | ファモキサドン | 27 | 11 |
| ダイナモ顆粒水和剤 | 2,000倍 | 収穫3日前まで | 3回以内 | シモキサニル | アミスルブロム | | 21 |
| ベトファイター顆粒水和剤 | 2,000倍 | 収穫7日前まで | 3回以内 | シモキサニル | ベンチアバリカル ブイソプロピル | | 40 |
| ブリザード水和剤 | 1,200倍 | 収穫7日前まで | 3回以内 | シモキサニル | TPN | M5 | — |
| カーゼートPZ水和剤 | 1,000倍 | 収穫3日前まで | 3回以内 | シモキサニル | マンゼブ | M3 | — |
| ピシロックフロアブル | 1,000倍 | 収穫前日まで | 3回以内 | ピカルブトラゾクス | — | U17 | — |
| ヨネポン水和剤 | 500倍 | 収穫7日前まで | 5回以内 | ノニルフェノールスル ホン酸銅 | — | M1 | — |
| Zボルドー | 500倍 | — ^{注3)} | — | 塩基性硫酸銅 | — | | |
| クプロシールド | 1,000～2,000倍 | — | — | 塩基性硫酸銅 | — | — | — |
| ジマンダイセン水和剤 | 400～600倍 | 収穫3日前まで | 5回以内 | マンゼブ | — | M3 | — |
| ペンコゼブ水和剤 | | | | | | | |
| ダコニール1000 | 1,000倍 | 収穫7日前まで | 6回以内 | TPN | — | M5 | — |

注1) 殺菌剤コード：FRAC（殺菌剤耐性菌対策委員会 <https://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>）による農薬有効成分の作用機構の分類。同一のFRACコードの薬剤については、耐性菌の発達回避のため、連用を避ける。

注2) 混合剤については、各成分の総使用回数に注意して散布する。

注3) 使用基準欄の「—」は、登録制限無しを示す。

農薬の使用に当たっては農薬使用基準を厳守するとともに、ドリフトに注意するなど、安全・適正に使用するようお願いします。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、<https://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

